

令和7年度8月8日移動教育委員会・意見交換記録
(クリエート浜松 53 会議室)

○1年目や2年目に苦労したこと、支援してほしかったこと

(神谷委員)

2年目の方に伺いたい。大学を卒業して4月からいきなり学級担任や授業を行うことは一般企業では考えにくい。昨年度の1年間を振り返ってみて、特に1学期に苦労したこと、支援して欲しかったことがあれば教えてほしい。

(参加者)

最初に職員会議に参加したときは、正直何を言っているのかよく分からなかった。周りの先生方が、「分からないことあったら何でも聞いてくれればいい。」と優しく声かけをしてくださったが、そもそも「分からないことが分からない」という状態だった。周りの先生方の手助けがあり、何とかやってこられたと思う。

大学での教育実習で、直接子供と対応する授業だけでなく、職員会議や授業以外の仕事も実習できるような場があると、現場に入ってからもう少しスムーズに対応できるのではないかと感じた。

(神谷委員)

何に対して一番難しさを感じているのか。授業をすることなのか、生徒指導なのか、授業以外の業務や事務的な書類を書くことなのか。

(参加者)

見通しを持たないこと。何年か経験のある先生は、どのぐらいの時期から成績をつけ始め、そのために何をすべきか見立てがあるが、1年目の頃は全く分からなかった。先輩に「そろそろ成績だから」「もう少しで体育大会だから」と声をかけていただいても、どうしたらいいか分からなかった。

(神谷委員)

マンツーマンで見てくれる先輩がつくのか。それとも、手が空いている先生に相談するのか。

(参加者)

1年目は指導教官の先生がついてくださるため、手厚く指導してくださっている。

(下鶴委員)

見通しが持てないことで、いつ、どこに一番力をかけなければいけないかがまだ分からないのではないかと。そうこうしているうちに、子供の成績をつけたり、三者面談の準備を行ったりなど、立て続けに仕事が押し寄せてくると思われる。

(神谷委員)

他に、1年目での苦労があれば話していただきたい。

(参加者)

昨年度は学級担任を務めた。先ほどの方と同じように、職員会議の話に全然ついていけないことがあった。私が一番戸惑ったのは、自分で時間割を組んで授業を進めていくこと。それを知らずにとても焦った。最初は主任の先生が声をかけてくれ、丁寧に教えてくださったが、その後は手探りで授業をしていた。また、昨年度は学年会計を担当していたが、教材やテストなどを注文するときに何をチェックし、どの本で調べるのかを先輩方に聞きながらやっていた。丁寧に教えてくださったが、見通しが持てないこともあり、どの時期までに何をやるという流れを意識するのがとても難しかった。

(神谷委員)

学年会計のマニュアルなどは、各学校でないのか。

(参加者)

本校では、昨年度は事務の方が作成し、渡していただいた。今年度はまだもらっていない。

(下鶴委員)

それは、学年会計に関して事務職員が出してくれたのか。

(参加者)

はい。フラットファイルで各担当に1冊ずついただいた。

(参加者)

私は他県で教員をやっていたため、浜松市に来たときに大きな違いがあり戸惑った。本校では、先輩方が学年会のときに重要な内容を紙で出していただき、すごくありがたかった。浜松市はとてもやりやすいと思う。

(神谷委員)

浜松市はどんなところがやりやすいのか。

(参加者)

浜松市は、他県と比べて春休みや夏休みが長い。休みが長くある分、心のゆとりができる。

(下鶴委員)

教育実習で授業をしたり指導案を書いたりしてきたが、現場に入ったときに「こんな仕事もあるのか。」と驚いたこともあったと思う。それはどんなことだったか。

(参加者)

本校は研修に力を入れている学校であるため、自己研修として、自分で PDCA を立てて授業を実践したり、日々の子供たちの様子を写真に撮ってこまめに記録を残したりすることが求められた。学校によって違うと思うが、現場に入って、子供と接することとは違い、自分の研修や成長についても考えていかなければいけないことを学んだ。

(下鶴委員)

自分が成長しているという実感はあるか。

(参加者)

3 年目ぐらいから少しずつ心に余裕が出てきたと思う。

(教育総務課長補佐)

他に、「教員はこんなことまでやらなければいけないのか。」と思ったことはあるか。

(参加者)

備品点検。1 年目は、備品点検も教員の仕事に含まれることに驚いた。

(参加者)

生徒指導については大学の講義でも学んだが、まさかこんなに深いとは思っていなかった。1 年目は、何かあったら自分で何とかしようと思っていたが、それではうまくいかないことを実感した。児童相談所やスクールカウンセラーなど他機関との関係、対応が難しい保護者への対応などには、チームワークが大事だと思うため、今は自分だけで何とかしようとは思っていない。先輩に助言をいただける機会がたくさんあり、ありがたいが、まだまだ慣れていない部分もある。今後、もし自分一人に対応しなければならない場面に直面したら、どう対応したらいいのかという不安もある。

(参加者)

学校行事や生徒会活動の運営で、大体 9～10 月に 3 年生から 2 年生にバトンが渡る。初めて生徒会を担当したときは、専門委員会の運営がうまくいかないと感じながら進めていた。周りの先生方からも様々な助言をいただいたがなかなかうまくできず、もがきながらやっている。1～3 月頃になると、3 年生を送る会に向けて生徒会が中心となって準備を進めていくが、子供たちは放課後に部活動に行きたい気持ちを抱えながら、生徒会活動も並行して取り組んでいた。一方で、部活動の顧問から「生徒会に費やす時間が長い。」と言われることもあった。3 年生を送る会が終わったら、今度は次年度の 4 月に行う新入生の対面式の準備があり、年度の切り替えの時期がとても忙しくなる。1 年の中でも、忙しい時期とそうでない時期があり、大変だった。

（下鶴委員）

教員として、学級だけでなく、専門委員会などを通して学年や学校全体を動かすことには醍醐味がある。

（参加者）

先ほどの生徒指導に関して、ご家庭に伺いたい、または学校に来て欲しいというときに、保護者から当たり前のように「20時や21時なら行けます。」と言われることがある。三者面談でも、16時30分までの枠なのに「16時30分までは仕事があって難しい。」と言われる。保護者にそう言われたら、担任として「わかりました。」と言わざるを得ない。また、ときどき教室からいなくなってしまう子供がいるとき、教員で手分けして探しに行くが、直接かかわりのない学年の子供だと、その子の写真だけを頼りに探さなければならない状況になる。また、職員室に待機している場合は、「私たちはいつまで職員室に残っていればいいのか。」と思うこともある。私たちは警察ではないからどうしようもできない。この2つは今でも困っている。

（神谷委員）

中学校の先生は空き時間があるのかもしれないが、小学校の先生は担任をしていたら子供たちが帰るまで授業以外の仕事ができない。子供たちが帰った15時から17時頃までの間にすべての仕事をやり切るのか。

（参加者）

希望としては1日に最低でも1時間は空き時間が欲しいが、時間をとれないことが多いため、勤務時間外で仕事をしている。

（神谷委員）

中学校の先生は1日1時間ぐらいあるのか。

（下鶴委員）

教科によって違いがあるのか。

（参加者）

私は2時間くらいあるときもあるが、その空き時間も子供たちの生活ノートや課題の点検に費やすことが多い。また、私は担当教科が理科だが、例えば中学2年生だと化学の実験をエアコンのない理科室で火を使ってやらないといけなく、夏は大変である。さらに、授業が1時間目から3時間目まで連続していて、授業の内容や進度もクラスによって違うため、教材も違うものを準備しないといけなく、10分間の休み時間では、器具の入れ替えや薬品の準備などを行うが、50分の授業の中で片付けまでやり切ろうと考えると準備の時間が足りない。準備をしていたら授業開始の時間になってしまい、トイレに行こうと思ってもいけないこともある。体育の先生も、何時間も続けて体育館や屋外で授業をしていると聞いたことがある。

(神谷委員)

授業の準備の時間も必要だと思う。

(参加者)

いま、一番欲しい時間である。

(下鶴委員)

授業は教員の本分であるため、準備の時間は重要である。

(神谷委員)

準備の時間は、実際に授業をするよりも大事なのか。

(参加者)

私は、今年は小学校6年生を担当している。教科担任制で、体育と算数を中心にやっている。去年までは全教科の教材研究をして、とても大変だった。今年は算数と体育だけで良いため、算数も深く教材研究ができる。指導要領としっかり照らし合わせながら、大切な部分を押さえて指導し、子供の反応もよく見ることができる。そう考えると、小学校も教科担任制の方が授業に対する専門知識や意欲が高まり、空き時間もその方が増えると思う。

(下鶴委員)

教科担任制は、指導力や授業力の向上につながると思う。6年1組ではうまくいかなかった場合でも、6年2組では改善しようと考えて取り組める。また、小学校では理科支援員、高校では実験助手がいると聞く。理科支援員がいればずっと実験の準備がスムーズであり、実験もやりやすくなる。

○教育 DX 推進について

(参加者)

小学校では空き時間はほとんどなく、高学年の学級担任は児童の下校時刻が15時30分を過ぎるため、勤務時間内にすべての仕事をこなすのは非常に困難である。本校では、去年からリーディング DX により働き方が楽になった。例えば、ワークシートを1つ作ったら、学年で共有できるというメリットがある。子供たちは今、タブレットを持ち帰っているため、家庭学習として授業の振り返りをしたワークシートを次の授業前に確認することができる。学校だけで全て完結するのではなく、家庭ともうまく連携しながらできるのがいいと思う。他の学校でもリーディング DX 化が進むとよい。

(参加者)

リーディング DX では、授業を他の先生と共有したり、協議したりする時間をたくさん設けている。先ほど「授業準備の時間が厳しい。」という声もあったが、本校は校内研修で優先

的に授業準備の時間を確保してくれるため、非常に助かっている。

（教育長）

ある小学校では、全国学力調査でリーディング DX の成果が見えたと校長から聞いている。単にスコアが上がったというだけではなく、子供たちの意識として、自分たちで学ぼうとすることや、タブレット等を使うと授業がわかりやすいこと、家庭学習に役立つことなど、実際に探究的な学びを家庭でもするようになったとのことである。今年の6年生は、そういったところにも数字として表れた。

（参加者）

子供たちも、自分で学ぼうという意欲が高まった。学校は協議する場であり、他者を見習ったり、学び合ったりする場というように意識化してきたと思う。家庭学習で情報収集をしながら、1人でできる学びは家庭で取り組み、学校に来たら話し合って深める場というのが定着してきた。「学ぶって面白い。」「教科書はこういう作りになっている。」など、今の6年生はこの1年で主体性がすごく出てきた。

（教育長）

ただ単に取り組んでいるだけでは成果が出ないと思う。子供たちの意識向上につながったのはなぜだと思うか。

（参加者）

私は今年度、5年生から6年生へ持ち上がりで担任となった。去年は、教科書での学び方や友達との学び方など、学び方を徹底して取り組んだ。学び方が確立すると、「こうやってみよう。」「次はこうすればいいんだ。」など、子供たちが学習の見通しを立てられるようになったのが大きいと思う。学び方の習得ばかりを重視すると、今度は教科の本質が深まっていけないのではないかという課題が出たが、子供たちの主体性が芽生えてきたのは、一番の収穫だと思う。

（教育長）

「テストで測ることができる学力がついたと言えるのか。」ということに立ち返ると疑問視されるのかもしれないが、長い目で見たら、目指すべきはそこではない。単に知識を得る授業ではなく、今おっしゃったようなことができているのは成果として非常に素晴らしいと思う。また、5年生から継続して取り組み、6年生になって今回成果として表れたのは素晴らしい。

（神谷委員）

私が通っていた中学は、そもそも先生が教えてくれる授業ではなく、自分たちで考えて進めていく授業だった。短歌や和歌の授業をやるときに、最初に計画シートが配られ、10時間分の計画をすべて個人で立てなければならなかった。10時間目だけ先生が授業を行い、あとはすべて自分で学習した。地理では、最初にワークシートが配られ、個人で図書館で調べて、最後にクラスで答え合わせをするような授業だった。理科の授業では、主にグル

ープで実験に取り組み、実験結果から考えるような授業だった。国語のテストは、「短い小説を読んで感想文を書きなさい。」など、先生が採点するのが難しそうなテストだった。40数年前にそういう授業を受けてきたため、それが当たり前のことだと思ってここまで来ている。自分の子供は現在小学校6年生だが、いつも「まだそこまでいっていない。」と思いながら見ている。テストでいい点数をとることだけがすべてではないと思うため、色々な学び方があるのは良いと思う。「テストでいい点をとって、いい高校に行けた方がよい。」と考える親も多いと思うが、せっかくDXやタブレットを活用できるのであれば、どんどん使っていけばいいと思う。ちなみに、先ほど家庭学習が話題に出たが、宿題などはあるのか。

(参加者)

高学年は自分で計画を立ててやっている。宿題がないわけではなく、子供につけたい力があつた際に出すようにしている。今の話の中で、子供に全部委ねていいかということ、なかなかそこが難しい。単元の最初の1時間は、どのような視点で単元を進めていくのか、教師主導で指導をしている。最初に子供たち全員で学習計画を立てさせ、「このときには思考ツールを使った方がいい。」「こういうまとめ方がいい。」など、子供たちが考えるきっかけを作ることができると思う。子供たちに最初から単元の10時間を全部与えても、何を視点にしていかわからないため、最初の1時間は必ず一緒に取り組み、そこからだんだんと手を離していく。最近の課題は、45分の中で教師がどこで介入すればいいのかということ。子供たちはそれぞれテーマや学び方が違うため、全員が目標にたどり着いていない状態で教師が介入していいのか迷うことがある。「子供主体の授業」とはいえ、その背景には教師がいるのではないかと思う。

○教員の働き方について

(神谷委員)

先生という職業はとてもいい職業で、やりがいのある仕事である。一方で、法律上の制約があつたり、古い体質だと感じたりするところもある。それを理由に、教育実習に行っても先生にならなかったり、教育学部に行っても一般企業に就職したり、若手の教員が辞めたりすることがある。教員を辞める理由やストレスを抱えて休職をされる理由は、実際の細かい部分はあまり分からない。休職されたり、辞めたりする理由の中で、自分たちの力で改善できることがあればしたいと思っているため、例えば保護者対応が辛くて辞めた、子供は好きだが仲間の先生や上司が嫌だったなど、言える範囲で教えていただきたい。

(下鶴委員)

また、逆に「こういうことがあって立ち直った。」というようなことでもよい。

(神谷委員)

「辞めたかったが、これがあつたから辞めずに済んだ。」ということがあれば言っていたきたい。

(下鶴委員)

最近、先生が教職を離れてしまうというニュースが度々聞こえてくるので寂しい。どんな思いで教職を離れるのか。

(参加者)

実際に辞めた人に聞いた話だが、学校と社会との仕組みが違うことだと言っていた。例えば、学校は8時からの勤務だが、子供は7時30分頃から登校している。それをスーパーマーケットで置き換えたら、開店時間が8時なのに、7時30分からお客さんが入店している状態と同じということになる。その人は新しく福祉の仕事に就いたが、始業時間はしっかりしているため、朝の余裕も違う。8時から仕事が始まり、8時から給料が発生するという仕組みがとてもよいという話をされていた。

(神谷委員)

学校では、子供が早く来たら早く受け入れるのか。

(下鶴委員)

学校によって異なる。安全性を確保しなければならないため、登校時間に制限を設けたり、正門を開ける時間を設定したりしている学校もある。保護者の仕事等の関係で、子供を早く登校させる場合もあると思う。

(神谷委員)

皆さん、出勤時間は何時頃なのか。

(参加者)

私は7時頃に学校に着くようにしている。教頭はその時間にはすでにないて、私より早い先生は6時や6時30分から学校にいる。

(神谷委員)

その時間に来て何をしているのか。

(下鶴委員)

授業の準備をしているのだろう。

(参加者)

本校では、去年は7時30分に昇降口を開けていた。今年は7時40分に昇降口を開けることになっているが、早い時間から来てしまい、6時50分頃に運動場で遊んでいる子がいる。あまり早く来られても、職員が早くから対応できない。一方で、学級担任は教室で子供を迎えた方がよいという話もあるため、私は7時40分には教室にいるようにしている。前日できなかったことや当日の授業の準備、教室の環境整備などをしていっていると、あつとい

う間に7時40分になってしまう。7時30分頃に出勤する先生もいるが、個人的には準備を頑張りたいため、早めに行ってしまう。

（神谷委員）

皆さん、とても真面目だと思う。「子供のため」と考えて頑張っているが、そのためにうまくいかないのだろうとも思う。自分は商売をやっているが、「お客様のために」と言われたときに、遅くまで残って仕事をしていることがいいことなのか、と疑問に思うことがある。

（参加者）

保護者の送迎が多く、7時30分を過ぎると職員も駐車場に入れないことがある。保護者の送迎の車の列に職員も並ばなければならない、特に雨の日は7時30分には大渋滞になっているため、やむを得ず少し早めに登校している。

（下鶴委員）

PTA や学校運営協議会で話し合っていていただくといいかもしれない。他都市では、教員が行うのではなく、地域の人たちにボランティアを募ったり、シルバー人材に助けをいただいたりして、子供たちの安全管理を確保してもらうような取組もある。

（神谷委員）

みなさん、朝は何時に起きているのか。

（参加者）

5時40分から6時の間くらい。

（神谷委員）

ここが会社員と先生の違いだと思う。学生になぜ先生になりたいか聞くと、「小学校のときに教わった先生に憧れて」など、ずっと先生になりたくてなったすごい人たちだと思う。だからこそ、教員は真面目に仕事をしようとして早起きもしている。

（参加者）

子供の安全性が一番大事だと思うが、通学時間を変えるのはなかなか難しいことだと思う。ならば、教員の勤務時間を早めることは可能なのか。

（教職員課副参事）

校長の裁量による。

（下鶴委員）

教育課程をどう組むか、標準時数をどこで確保するのが課題となる。

（教職員課副参事）

先ほど、6時間授業だと子供の下校が15時30分頃だと言っていたが、中学校も同様だと思う。

（参加者）

そこをどうにかできないのだろうか。

（神谷委員）

そもそも標準時数は多いのか、少ないのか。もっと減らしてもいいのか。

（教職員課副参事）

ゆとり世代の頃と比べれば格段に増えてきている。昔、土曜日があった頃と同じくらいの授業数を平日のみで行っているため、当然、平日の授業時間は増えている。

（神谷委員）

浜松市は、国で決まっている標準時数の通りなのか。

（教職員課副参事）

標準時数を下回らないように作っている。ここ数年は標準時数を最低限で満たす学校が増えてきたが、余裕を持って組んでいる学校が多い。

（神谷委員）

標準時数を減らすにはどうしたらいいのか。国に言わないと難しいのか。もしくは、教育委員会が頑張らなければいけないのか。

（教職員課副参事）

私は、毎日5時間授業で組めるぐらいの授業時数だったらいいと思う。

（下鶴委員）

そのぐらいの授業時数なら、保護者対応にしろ、明日の教材研究にしろ、もう少し時間が確保できるかもしれない。もし人手がたくさんあれば、フレックスタイムでもできるかもしれない。

（教育総務課課長補佐）

市役所だと、例えば朝30分早出の人は30分早く帰るという制度がある。

（参加者）

いま自分が勤めている学校は、子供たちの下校が16時で、勤務時間が16時30分までのため、後ろの30分を前に付け足すだけでも大きく変わると思う。部活動がある場合もあ

るが、16 時に子供たちが学校を出て、教員もそこで勤務が終わる。そして、最初の 30 分の子供が登校するタイミングで勤務が始まる。

（教職員課副参事）

実は、早出遅出の制度は市役所の職員だけでなく学校もある。使える制度はあるが、実際に学校で使っているかというところではない。

（参加者）

中学校では部活動があり、気づいたら 19 時くらいになっている。そこからやっと仕事に取り掛かる。もし生徒が 19 時に帰るなら、教員の勤務開始時間を 10 時ぐらいにしてもいいんじゃないといけな。

（参加者）

日課を変えるのはなかなか難しいと思う。放課後の過ごし方として、本校は、留守番電話への切り替えが 18 時だが、16 時 30 分という学校もある。それを早めるのは学校裁量なのか。また、浜松市として統一する考えはあるのか。

（教育総務課課長補佐）

浜松市では統一はせず、学校裁量で行うという方針で始めた。例えば天竜区だと、通学バスで帰る子供たちがいて、その帰宅時間までは留守番電話にできないなど、地域性があるためである。下校時間を過ぎて、大体家に帰るくらいまでの時間を想定して、留守番電話を設定しているのではないかな。

（神谷委員）

電話は 6 時以降もかかってくるのか。

（参加者）

保護者から「電話をかけたがつながらなかった。」と言われることはある。6 時前までにかかってきたとしても、生徒指導の込み入った内容だった場合には、電話が長引いたり、さらにそこからケース会議を開いて初動対応したりするため、結局遅くなってしまうのが現実だと思う。「子供のため」といえばその通りではあるが、自分の知っている方でもそれが原因となり心労でやめてしまった方もいる。自分も小学生の頃から教員になりたくてなったが、多分その部分はこれからも変わらず、どこかで限界が来るのではないかなと思って。また、仕事だけではなく、親の介護などプライベートでの難しさがある方もいると思う。どこかで働き方が変わらなければ潰れてしまうのではないかなという怖さや不安はある。

○部活動の地域移行について

(参加者)

今日ここに来る前に、学校で他の先生と部活動の話をしていた。大会運営をしている競技部長の先生の中には、日を超えて仕事をしている方もいる。ある人は、奥さんがワンオペで大変だという話をよく聞く。また、実際に部活動で出勤している時間を給与として計算したら、時給 280 円くらいであったという話を聞いた。最低賃金の時給換算で支払ってもらえないのか。また、部活動の地域移行について、保護者からの質問や苦情があったとき、その窓口として、初任者や 2、3 年目である主顧問や副顧問が答えなければならない。そこでもめた場合、その場に管理職がいなくて一番怖い。教員の中には部活動がやりたい先生もいるのに、相応のお金が出ないからやめたいと思う若手もいると思う。地域移行の話が出てからは、職員室の中でそういう声が、若手に限らず中堅の教員でもよく話題に上がる。教員や保護者にわかりやすく伝えられるようにならないかと思う。

(神谷委員)

教育委員会の中でも、仕組みがややこしいという意見がある。特に今の移行時期に関しては、うまく行くかどうか難しいことが多いだろうと思う。

(下鶴委員)

地域移行が開始したとしても、人手不足や受け皿不足という問題が起こる。校長先生方は仕組みについて詳しく聞いているかもしれないが、全職員が同じ説明を聞かないとなかなか浸透しない。私は、保護者がどう受け止めるかが重要だと思う。

(参加者)

本校でも来年度から地域移行が始まる。例えば、去年までは部活動の完全下校時刻を前期と後期で 1 時間ずらしていたが、今年の 9 月からは 1 年間通して 17 時 50 分にするなど、学校裁量で段階を踏んで変えていこうとしている。しかし、一部の保護者からは「なぜもっと部活動をやらないんだ。」と言われることがある。顧問が「今は浜松市全体がそういう流れです。」と説明しても、矛先はすべて学校に向いてくるため、モヤモヤする。

(神谷委員)

地域移行に関しては、自分は部活動自体が今までのあり方と全く違うと捉えている。全国大会に進出したい、勝ちたいという人は部活動をやるような環境ではなくなってきている。これからの部活動は、日頃から体を動かしたい、楽しみたいという人がやるような流れになってきている。例えば、野球やサッカー、バスケットボールなどで一生懸命やりたい子供やうまい子供はすでにクラブチーム等に入って活動している。地域移行したからといって、これまでの部活動の延長線上で進むわけではない。平日の活動も 1 日減るため、ゆるりとやるイメージになっている。部活動を一生懸命やりたい先生の中には物足りないと思う方もいらっしゃる。教員を辞めた先生たちで野球チームを作り、勉強も教えるという活動をしている方もいらっしゃる。これからはそういう教員が増えてくると思う。また、

先生を目指すのではなく、スポーツを教える人を目指すようになるのかもしれないと思う。浜松市は、良くも悪くも校長先生の裁量権が大きいので、地域移行に関しても、先生や保護者への説明の仕方や移行の仕方は学校によってまちまちである。先ほど話題になっていた働き方や退勤時間についても校長次第のところが多い。

（下鶴委員）

教育課程を組むときは、校長裁量ではなく職員会議で行う。何回も何回も練って、この行事はこの時期がいいだろうなど、小中の連携も考えながら検討していくものだと思う。

（神谷委員）

給与については、先生たちはもっと厳しく要求した方がいいと思う。僕は、教員の仕事は教員のやる気に依存している職業 No. 1 だと思っている。予算には限度があると思うが、時給 200 円台でやるようなことではない。見合った対価をいただかないと、この先に先生になりたい人たちもいなくなってしまう。

（下鶴委員）

給特法や教員調整額も見直されたが、微々たるものだと思う。

（神谷委員）

普通の給料はちゃんとしていると思う。残業分や休日出勤分、朝早く出た分などが足りない。

（教職員課副参事）

教職調整手当の仕組みだけをいえば、これまでの経緯で法律が変わったため、浜松市として条例を整えば、令和 8 年 1 月から 5 % になり、段階的に 10 % まで引き上がることはになっている。しかし、それでも先ほどの話と同じで微々たるものだと思う。

（神谷委員）

公立学校の教員を辞めて私立学校に行こうと考える人はいないのか。周りで私立学校の方が待遇がよさそうだという話を聞くことはあるか。

（参加者）

私の親戚は、昨年度まで公立学校で働いていたが、今年度から私立学校に移った。業務も昨年度より軽くなり、給料も少し上がったと言っていた。

○他県との違いについて

（参加者）

別の話で皆さんにお聞きしたい。私は他県から来て、今年度採用されて浜松市で働かせていただいている。他県でもタブレットを使って授業をしていたが、Google アカウントを

利用して教育活動ができるソフトを使っていた。浜松市でも同じようにできないか、情報主任の先生に確認したところ、インターネットにつながるアプリやソフトは使えないことを教えてもらった。様々な問題があり難しいところもあると思うが、他県でできていたことができなかったのが自分としては悔しい。その点は改善できるのだろうか。

（教育総務課課長補佐）

セキュリティ上の関係で難しいということであると思う。自分が入りたいアプリを自由に使えないということなのか。

（参加者）

他県では iPad を使っていたため、safari (ウェブブラウザ) を経由して「Canva (キャンバ)」というオンラインで使える無料ツールをよく使っていた。ミライシードのように連携して入り、登録も自由にでき、クラスルームのように教員がアカウントを作って生徒がログインできる仕組みがあったが、今は使えない。

（学校教育部次長）

使っている端末が異なる。そもそも、浜松市では iPad を使っていない。

（参加者）

別の端末を導入するのは難しいのか。

（教育総務課課長補佐）

専門分野ではないため、詳細は分からない。

（参加者）

市によって考え方も違うため、導入するのは難しいとは思っている。逆に、新しいことに挑戦できるよい機会だと思い、取り組んでいきたい。

（下鶴委員）

もう一度情報主任に伝えてみるといいかもしれない。

（参加者）

せっかく今まで使ってきたものだから、使えるようになるとありがたい。

○プール管理について

（教育総務課課長補佐）

プール管理を担当している先生はいらっしゃるか。

(参加者)

水質や薬品を管理するなど、大変である。

(教育総務課課長補佐)

最近、全国的にも水を流しっぱなしにして莫大な水道代がかかってしまう問題が起こっている。市内でも毎年何件かある。

(下鶴委員)

水温も熱くなっているのか。

(参加者)

水温は 25～26℃くらいである。

(参加者)

本校だと、30℃近くになることもある。

(下鶴委員)

(高温で) 水泳の授業を中止したことはあるか。

(参加者)

気温と水温を足して 65℃以上になったら中止にする。他にも、雨が強い場合にも入れない。

(参加者)

本校では、それまでの時間割を全部組み直して、「サマータイム」という水泳用の時間割を作っている。3時間目までに全学年の体育の授業ができるように組んだため、体育の授業はやすくなったが、小プールの中に1学年全員が入るということが起こり、水がすぐなくなった。

(下鶴委員)

気温が高いから、午前中に体育をやってしまうということか。

(参加者)

熱中症で倒れる子供はいなかった。

(神谷委員)

プールの授業(実技)は必須なのか。

(教職員課副参事)

体育の学習指導要領には記載されている。

(参加者)

水泳では、運動（実技）をしなくても、講義や知識だけでもよい。大阪では、実技をやっていないところもある。

(参加者)

プール指導では、指導者が1人の場合、プールに入らず見ていないといけない。小学校1年生だと、手本ができる子が限られていたり、泳げない子も多かったりして、自分が入って実際に見せて教えたいという気持ちはあったが、それができずにすごく難しかった。学校運営委員会の方と協力しながら、複数人でできたらよかったという気もする。

(教育総務課課長補佐)

先生は入ってはいけないのか。

(下鶴委員)

全体を見渡せる場から指導することは重要である。学習支援員はついてくれていたのか。

(参加者)

ついていなかった。

(下鶴委員)

本来なら、1時間に複数の学級がプールを使用するように時間割を組み、緊急事態には、複数の教員が協力して対応できるようにすることが大切だと思う。

(神谷委員)

プールでは1人で何十人も見るのが通常なのか。

(参加者)

今年の小学校1年生は1クラス33人いる。去年や一昨年は、支援員の方が1クラスに2人か3人ついてくださっていたようだが、今年はフリーの先生も5月で産休に入ってしまった1人もいない状態である。

○仕事をしていく上での困りごと（普段感じていること）

（参加者）

校内研修の中で、他の学校の先生が「すごい」という話を聞くことがあり、実際にその中学校に授業を見に行きたいと相談したときに、出張旅費や業務の都合等で行けないことがある。もちろん、校内の先生方も指導してくださり、勉強にはなるが、気軽に他の学校に行って「目当ての先生の授業を見たい。」と言っても、なかなか行くことができず困った。旅費にも限りがあるので、そういうときにオンライン等が活用できればよいと思う。

（参加者）

1年目に、担任と部活動の主顧問を務めた。自分は教員になり、担任をやりたいかったので「最初から担任をやらせてください。」と言ったが、他県では、副担任制という制度があると聞いた。若手の先生が経験を積むために、いきなり一人で担任を行うのではなく、ベテランの先生とペアになって副担任という形で教室に入りながら経験を積んでいき、1年間の流れを理解した上で担任に就く方がよいと感じる。もちろん、1学級に1人ずつベテランの先生を配置するのは難しいが、3学級に1人程度であれば可能だと思う。教科指導でも、4月に入って、「さあ、やってみてください。」と言われてもなかなか技能的に難しい。初任者研修の中で、ベテランの先生の授業を見る機会はあるが、回数は少ない。回数を多くしてほしいが、教員の数少なく難しいと感じる。そのような意味で、今後の教育現場がより良くなるためには、教員の確保が最優先になってくると感じる。

（参加者）

講師を2年勤めてから今の初任校に行ったため、学校の業務に慣れた状態で、初任者として勤めることができた。指導者の先生からも手厚く指導してもらい、すごくありがたい環境であった。しかし、大学卒業後すぐに学校で勤務する初任者は、着任した当日に、内容量の多い職員会議を何も分からない状態で行う。新学期が始まったら、慣れない児童・生徒の対応など、戸惑うことが多くてすごく大変だと思う。自分の講師1年目を思い返したときに、担任を持たないフリーの教師という立場で務めた。2年生から6年生のほぼすべてのクラスにいろいろな教科で入ったが、初めてということもあり、授業のやり方も分からなければ、授業だけで子供たちと関係を作ることもできず、どうしたらいいかわからずパニック状態であった。そのときは、勤務時間だけでは業務が間に合わず、家に帰ってからもパソコンを開き、夜中の12時や1時ぐらいまで作業を行っていたことを思い出した。すごく苦しかった思い出がある。そのような状況で苦しむ方がいなくなればよいと感じる。

(参加者)

研修に関しては、オンラインでの受講が増えてほしいと思う。教員になって3年目だが、以前と比べれば増えてはいるが、自分が大学3、4年生のときは、新型コロナウイルスの感染症対策を行っていたときで、ほぼ100%の授業がオンラインだった。そのことを考えると、いろいろな研修を受講した際に、この研修はオンラインでもよかったのではないかなと思うことがある。オンラインの活用が増えれば、自身の所属する学校で研修を受講することになり、突発的な生徒指導の対応や移動時間の削減による生徒との時間の確保ができると感じる。

(参加者)

講師1年目の4月に、緊急事態宣言による休校になった。そのときに、内心「よかった。」と思う自分がいた。慌ただしく始まっていく中で、いろいろなことを覚えなければならないと思っていた分、ゆっくり落ち着いて始められると思った。もし採用1年目が、大学を卒業して1年目だったら、あのとき自分はどうなっていたらと思う。大学卒業後1年目で採用された方を見ていると、大変ではないかと思ってしまう。初任者研修について他県の友達と話すと、浜松市は研修の回数や出張する機会が多いのではないかなという話があった。自分は講師を経験したからこそ1年間の学校の流れを理解しており、見通しを持っていたが、講師経験のない初任者が1日や半日抜けると、「クラスで何かあったらどうしよう。」等の不安があり、安心して研修が受けられない方もいると思う。1年目だからこそ、子供と多く関われるように校内で学ぶ機会が増えてほしい。研修については、自分も悩んだ記憶がある。

(指導課副参事)

研修が他県より多いと言っていたが、初任者研修が多いのか。

(参加者)

オンラインではない対面の研修が多い。

(参加者)

オンラインができる環境になったことは素晴らしいことだと思っている。子供たちが、オクリンクやムーブノートなど、タブレット端末でいろいろなツールを使っていく経験を通して、新たな知識を得たり、意欲が活性化されたりしていくのを見ると、子供の学びに直結していると感じる。しかし、それを教師が上手に生かしていない点と、端末の管理の問題が非常に難しいと思っている。情報主任ではないが、端末の管理やシステムサービスとの連携等の業務を行う教員を見ていると、膨大な量を1人、もしくは少人数で、莫大な時間をかけて管理をしている。もちろん、業務の効率化や子供たちの主体的な学びに繋がるツールの活用は大変素晴らしいと思う。自分も使用していて助かる場面は本当に多い。ただ、管理する側の仕事の量やその方法については、管理方法の統一や簡略化等の改善が必要だと感じる。

（教育総務課グループ長）

他の学校の皆さんも同様に感じているか。タブレットの管理の大変さや活用の難しさなど、小学校と中学校では、状況が違うのか。

（参加者）

タブレットに関しては、情報の支援員が常時いてくれるとありがたいと感じる。情報主任の先生が、機器の管理や故障した際の代替機の対応をされていて、業務量がかなり多いと感じる。さらに、ICT に関する研修を率先して企画しなければならないなど、大きな負担だと感じる。本校はGIGA スクール構想の指定校であり、リーディングDX 等いろいろとチャレンジさせてもらっている。教員の情報リテラシーも高めていかなければならない中で、情報主任の先生の負担がすごく大きいと感じる。

（参加者）

発達心理学に関連した研修を増やしてもらえるとうれしい。学年主任が各クラスの朝の会の様子を見て回っているが、自分は他のクラスの先生がどのような話をしているかはわからないため、話の組み立て方や内容の作り方などが勉強不足である。そのため、1年間を通してどのように子供たちを育成していくのかという指標をまだ持ち合わせていない。子供と向き合うという点で、話し方や話の組み立て方などを発達心理学に則った内容で研修をしていただけるとすごく助かる。

（指導課副参事）

語りかけという話が出てきて、すごくいいと感じる。語りかけという言葉は、中学校で勤務していたときに、いろいろな学校で話がされていた。自分が以前勤めた学校では、学級担任を持っていると他のクラスの先生の話聞くことができないため、当時の校長先生の考えで、先生方が話をした内容をまとめ、1年間で1冊の冊子を作成した。それを教員間で共有することで、若手の先生方も、「この場面だったらこの話ができそうだ。」などの材料にしていたということを、皆さんの話を聞いていて思い出した。こういう方法もあるから、自身の提案として「教えてほしい。」と聞いてみるのもよいと思った。

（教育総務課グループ長）

そういった取り組みのある学校は少ないのか。

（指導課副参事）

自分が勤めていた学校がたまたまそういう取り組みをしていた。校長先生も「語りかけ」が生徒指導で非常に有効だと感じていて、それを1人の先生だけに収めるのではなく、いい話は全員で共有して、多少アレンジをしながら、場面に応じて話をしていこうという目的で冊子を作った。月に1回提出し、最初はすごく大変だと思ったが、まとまってみると、「この先生がこんな話しをしていたから、今度この話をしてみよう。」と思うことがあった。毎年行っていたわけではないが、1冊あればよい材料になる。こういうことを以前、取り組みとして行っていたが、すべての学校が行っているわけではない。

(参加者)

そういった取り組みもやりたいと思っている。タブレット等で文字起こしソフトを使って手軽に記録できると、多くの先生方が気軽に取り組めると思う。ICT の管理は大変であるが、「ChatGPT」などの生成 AI も含め、もっと活用し効率化していくことがよいと思う。導入の検討をお願いしたい。

(教育総務課グループ長)

機器自体は自由に使えるような環境にあるのか。

(参加者)

実際、使わせてもらっているこの機械で音声を取らせてもらっている。文字起こしのソフトは有料のため、使用できていない。

(学校教育部長)

生成 AI を学校に導入しようと検討している。実際に使う機会があるのか。もしくはすでに活用しているのか。市役所も 2 年ぐらい前に初めて「ChatGPT」が入り、制約がある中でも、挨拶文を作成したり、文章の要約などに使用したりしてみると、すごく便利であった。導入するからには活用してもらいたいため、学校の先生に「こういうことに生成 AI が使えたらいい。」とか、皆さんにも、「こういうことに使うといい。」ということがあったら教えてもらいたい。そういうことが実現できる生成 AI を導入していけばよいと思う。ぜひ、そういった意見を聞かせてほしい。個人的に生成 AI を活用している人はいるか。

(参加者)

夏季研修の際に、一般企業で働いている方々に話を聞く機会があった。AI を使用して仕事をしている人から、アプリをいくつか教えてもらった。例えば「ChatGPT」は、世界中から検索をかけてくれるもので、「ノートブック LM」は、自分がアプリに入れ込んだ情報を要約してくれる。「ChatGPT」はインターネット上の情報から検索しているため、嘘がある可能性があるが、「ノートブック LM」であれば、例えば洗濯機の説明書の情報をそのアプリに入れて、必要な情報を要約するため、嘘がない。少し活用してみようと思っている。

(学校教育部長)

生成 AI にも、教育分野に強いものがある。そういうことも考えていかなければいけないと思った。

(参加者)

部活動指導では、自分の専攻している競技ではなかったため、ゼロからのスタートであった。その際、学ぶ方法として「ChatGPT」を活用させてもらった。学級通信などを制作する際や、3 年生に専門的な知識について伝えたいときに、情報を分かりやすく加工できた。できれば子供たちに使用させたい。特に、学習の振り返りのタイミングで、わからない箇所を明確にするために、どの内容が定着をしていて、どの内容が分からないのかを判断で

きるような活用の仕方ができれば、より深い学びにつながると思う。

（鈴木委員）

他校の先生の授業を見てみたいという話があったが、「あの先生の授業を見た方がいいよ。」という評判のよい先生はいるのか。

（参加者）

「〇〇中学校にいる社会科の〇〇先生がすごい。」という話を、別の学校の先生から聞いた。また、〇〇中学校の国語の〇〇先生もすごくて、子供たちだけでなく先生も楽しみながら授業が進み、子供たちの理解が進んでいると聞いた。そのような話を聞くと、とても気になる。1年目のときに校長がおっしゃっていた「教員は授業が全て。まず授業で信頼関係を築くこと。」という言葉がずっと覚えている。そのため、教材研究に力を入れている。子供たちは素直で、よい授業ができると楽しそうな顔をし、駄目な授業をするとつまらなそうな顔をする。授業で子供たちがつまらなそうな顔をしたときは、悔しいと思う。その意味でも、今後いろいろな授業をやりたいと思っている。情報を聞いていると、浜松市にはすごい先生がたくさんいるのだと感じる。

（参加者）

去年、校長に、「〇〇小学校に、学級経営がすごく上手な先生がいるから、授業を見に行っておいで。」と紹介していただき、昨年末に訪問した。それが、自分にとってはすごく感動的な授業であった。子供たちが主体的に学ぶ姿とはこういうものだということを感じ、今年度の自分の目指したい授業スタイルの手本となった。今年度は、自分の授業スタイルが定まった状態でスタートできた。いろいろな学校の先生の授業を見に行くことは大事なことでと感じた。

（参加者）

現在勤務している学校は、1学年に5クラスあり、同じ内容の授業でも、先生が5人いるため、板書や授業の進め方が5通りある。それぞれの授業を見せてもらえるため、とても勉強になる。ただ、でクラス数が少ない小規模校では、そのような研修は難しいと感じる。

（参加者）

研修等で、「すごい」と言われている先生の公開授業を参観する機会があるが、当日の授業だけ見ても、どのような経緯で当日の授業につながっているのかが分からない。そのため、自分自身も手本にしてみたいが、どのように目指していけばいいのかが分からない。そこで、校内の研究推進メンバーと話し合い、校内にいる先生方に、授業の土台作りについて発表してもらった。他校の先生に見せる授業の前段階の授業について教えてもらうことができ、とても勉強になった。

（黒柳委員）

先生方1人1人に初任者のときの困りごとが多々あることがわかった。保護者として学校に行くと、どの先生もすごくしっかりと教えてくれているため、不安はないと思っていた。実際に話を聞いてみると、不安な部分はすごく多いのだと分かった。そのサポート体制は、もう少し考えていかなければならないと思う。

○教員になってよかったこと

（黒柳委員）

働き甲斐や「教員になってよかった。」と思うことがあれば教えてほしい。

（参加者）

子供の成長を感じられるときが、「やっていてよかったな。」と一番思う。直近では、外国語の授業で振り返りのワークシートを確認した際、「先週はこの単語が言えなかったが、今週は覚えて言えるようになった。」ということが書かれており、子供自身も成長を実感しているのだということを感じると、授業を頑張って作ってよかったと感じる。

（参加者）

講師1年目は、授業のやり方もわからないことが多くあったが、何年か勤めているとわかる部分や慣れてくる部分がある。最近は、自分自身も授業をするのが楽しい。子供たちも学びに積極的な子供たちが多く、教材研究を頑張ると、子供たちが目を輝かせて授業に参加してくれる。そのような姿をたくさん見られたときが一番嬉しく、この仕事はいいなと思う。具体的は、授業が終わった後、子供たちが黒板の前に集まって授業の内容についての議論を始めたり、昨日の授業について、「家で勉強をやってきました。」と言ってきたりする姿を見ると、すごく嬉しくなる。

（参加者）

小学校1年生の担任をしている。だんだん子供たちも慣れてきて会話が増えたときに、「先生って仕事大変？」と聞かれて、正直に「大変だよ。」と返事をした。しかし、子供たちには、教師をしている私がすごく楽しそうに見えているようで、「すごく楽しそうだね。」と言われた。「幼稚園のときは花屋さんになろうと思っていたけど、先生もいいなと思い始めた。」という子供も何人かいて、休み時間の他愛のない会話から、自分の中で幼稚園から上がってきた子供たちとの関係性が少し強くなったように感じる。自分が教員として働く姿を見て、同じように教員を目指してくれるような子供が増えたらいいと思う。すごくやりがいを感じた。

（参加者）

授業でもそうだが、学級担任をしているときに子供たちの成長した瞬間を見たときが、すごく嬉しい。日々の語りかけや、行事等であえて少し距離をとるなど、様々な指導を通して子供たちが一致団結していく姿が、2学期、3学期と増えていくのを見るとやりがい

をすごく感じる。朝の会や帰りの会でいろいろな語りかけを行い、学級通信等も出すなど一生懸命指導を行っているが、学年担任制を実施している学校では、学級通信が出せない状況の先生もいると聞いたことがある。学級通信が出せないと、個人のやりがいがなくなってしまうのではないかと思う。現在、勤務している学校では許されているが、もし異動先で学年担任制等を実施している場合、学級通信は出してはいけない、教室の掲示物を行ってはいけない、朝の会は連絡事項だけに留めてクラスに深入りをしてはいけない、などと言われると、自分自身の授業以外にやりがいがなくなってしまう、つらいと思う。同時に、教員を続けていけるか不安になる。

（参加者）

学校教育の最終目標は、子供たちに「生きる力」をつけていくことだと思う。もちろん、教科書の内容や高校・大学入試、その後の勉強の「考え方」を教えていくことはすごく大事であり、大前提である。それ以外の場面で、子供たちにいろいろな話をしたり密に関わったりすることで、子供たちと一緒に盛り上がったり、悔しがったり、成長の過程を見届けられることが教員の良さである。部活動で一緒に県大会に行った時の嬉しさは、教員でなければ絶対に味わえないものだと思う。学校の運営次第だとは思いますが、朝の会などの子供たちへの語りかけの機会が失われてしまうと、教員の資質能力として持つべき語りかけができる能力が育たないのではないかと感じた。

（参加者）

子供と関わる仕事のため、子供が成長したり、子供への働きかけで学校全体が変わったりするときには、この仕事をやっていてよかったと思う。そのようなことをこれからも体験していけたらと思う。また、そういったことに力を注げるような働き方ができたらいいと思う。

（参加者）

教員は、保護者や他の先生と語り合ったり、話をしたりすることがたくさんある。子供の成長も、働き甲斐の1つではあるが、同じ学年の先生たちと1つの授業を作り、一緒に仕事をしていくことも、働き甲斐の1つである。研修で、ときどき同期と一緒にいることがある。そのとき、困っていることなどの話をする中で、自分の中では心が救われるし、一つの楽しみでもある。自分の置かれている環境の中で、他の先生たちから助言や温かい言葉をもらえていることに、仕事をしていてよかったと感じる。

（参加者）

5年生の担任を受け持つと決まった際に、「1年生から4年生までの間にいろいろと気にかけてあげなければならない男の子が在席しているため、少し注意して見てほしい。」と引き継ぎがあった。自分の中で少し不安はあったが、実際に受け持ってみると、自分とその子供との相性が良く、特に気にかけることはなかった。その子供の保護者と話をしたときに、「初めて面談で褒めてもらえました。」「担任をしてもらえてよかったです。」と話していただき、よかったと思った。

(指導課副参事)

相性が良かったという話であったが、具体的にどの部分の相性がよかったと感じているのか。参考になると思うので教えてほしい。

(参加者)

事前に聞いていた話とは違っていた。自分には、特段気にかける部分があるとは感じなかった。たまたま相性が良かったのだと思う。

(指導課副参事)

先入観を持たなかったことがよかったのかもしれない。

(教育長)

自分から「相性が良かった。」と言える先生は、多分誰とでも相性よくできる。

(教育総務課グループ長)

全体として子供たちの成長が見られたときに働き甲斐を感じるという意見が多かった。別の視点で、話がある方はいるか。例えば保護者や職員が関係する話で働き甲斐を感じるといった内容などはどうか。

(参加者)

技量が足りず、経験や自信もないため、いろいろなことに不安を感じている中で、子供たちの成長や保護者からの応援は、自分の心に響きとても嬉しい。現在の勤務校で働いていることがすごく楽しい。なぜ、こんなにも充実しているのか考えたとき、仲間が支えてくれることが、何より自分の中で大きいと思う。校長は、「何かあったら、私が責任を取るから胸を張ってやってこい。」と言ってくれる。教頭は、母親のような優しさを持って包み込んでくれる。他の学年の職員も、仲がよく、困ったときには全力でサポートしてくれる人たちである。自分は、そんな人たちの力になりたいと思う。また、そういう人たちのようになりたいと思う。それが、自分が楽しいと思える原動力だと感じている。

(教育総務課グループ長)

管理職のリーダーシップや雰囲気作りが大きい。そのように感じる方はいるか。

(参加者)

教頭がいろいろな話を聞いてくれてサポートもしてくれる。

(黒柳委員)

先生方の困りごとは、やはり管理職の先生が相談しやすいか。また実際、先生方は誰に相談するのか。

(参加者)

学年主任の先生など。

(教育長)

学年主任の先生に相談すれば、大体のことが解決していく、うまくいくと感じているのだろう。皆さん自身の認識の中で、学年主任に相談して、その後、学年のみんなで解決ができたと感じているとしたら、それは素晴らしい。学年が組織として機能しているということである。

○意見交換

(参加者)

他の教員と話す中で、教員の立場が低くなっているという話題になる。自分もそのように感じている。例えば、子供たち同士でトラブルがあり、保護者に連絡をすると、保護者から「仕事なので遅くなります。」と言われる。その後、保護者の仕事が終わるのを待って 18 時や 18 時半に報告し、片付けを行うと、結局 21 時や 22 時を過ぎて退庁することがある。このような現状について先輩たちと話をすると「一昔前は違った。」ということを知る。現在の子供たちは、自分が悪いことをしても、自分の都合のいいように保護者に報告して、それを保護者も鵜呑みにしてしまう。学校が事実を伝えても、保護者は「子供はこのように言っているのだから、こうじゃないのか。」と返答する。このような現状の中で、自分たちの立場がないとすごく感じている。このような状況が改善されないと、今後教員になりたい人は減ってくると感じる。

教育は国の一番の根幹だと思う。未来の人材を育てていくための学校教育を支えている教員の立場を上げていくために、保護者の理解をもう少し得られればと思う。大半の保護者には十分御理解いただいているが、ごく一部の方たちに御理解いただけていない現状が難しいと感じている。

(参加者)

時間外の電話対応が大変である。勤務時間終了である 16 時 30 分以降になってもたくさんかかってくる。その中でも、不在の先生のクラスの対応となると、学年全員でそのクラスの出来事を推察して対応するのが大変である。時間外の面談も同じような状況があり、件数もすごく多いと感じている。

(黒柳委員)

働いている保護者は、共働きの方が多いと思う。その中で時間外の対応はどうしてもやらざるを得ないと思う。実際、どのぐらいの時間で保護者が来られるのか。

(参加者)

遅い時だと 18 時や 18 時 30 分などである。

(参加者)

例えば、市役所の窓口は17時15分には閉まってしまう。そうすると、保護者はそこに間に合うように休みを取って、書類等を提出しに行くが、学校はそうはならない。同じ公務員のはずなのに、なぜこんなに対応が変わってしまうのか疑問に思う。

(参加者)

家庭訪問でも、「以前の先生は希望する時間に対応してくれたのに、今の先生はそこまで融通を利かせてくれない。」と言われることがある。そのような事例があると、どこまで時間外対応をすればいいのか分からない。

(黒柳委員)

家庭訪問で、遅い時間に訪ねなければならない家庭はあるのか。

(学校教育部参事)

緊急の対応が必要な状況であれば、家庭訪問を行うことがある。

(学校教育部長)

行政も、クレームを受けることがある。ただ、学校と行政の違いは、先生方は子供たちを小学校だと6年間、中学校だと3年間預かっていて、その間継続して繋がりをもつ保護者が対象であるということである。行政が対応する市民は、もしかすると1回きりの対応になるかもしれないが、先生方は保護者とずっと付き合っていくといけな。関係性を継続していかなければならない。民間企業でも、「カスタマーハラスメント」が話題になっており、そのようなものを行政にも当てはめられるようになってきた。理不尽な要求等に毅然と対応するような仕組みを作ろうとしているところもある。市役所でもそういう流れがある中で、学校現場でも、何かできないかと考えている。ただ、先ほど言ったように、学校は継続して保護者と付き合いをしていかなければならない中で、そのような枠組みに当てはめてよいものかどうかは悩ましい。しかし、各学校や各先生が個別に対応するよりは、教育委員会としての方針を出して、それに則って学校や先生方が対応する方が、先生方を守れるのではないと思う。以前、働き方改革の方針を作った際も、「18時以降は電話に出ません。」ということを行った。そのように、教育委員会が方針を出して、その方針に則り、全校が一斉に実施していかないと難しいのだと思う。本来は、先生の立場について世間の皆様や保護者に御理解いただくことが大切である。それを行うには、世の中が変化していかないと難しいのかもしれないが、先生方を守れるような仕組みがあれば考えていきたいと思う。

(教育長)

皆さんには、お子さんが既にいる方もいれば、いない方もいる。いたとしてもおそらく、中学生のお子さんがある年齢の方はいらっしゃるかもしれない。つまり、皆さんはまだ、自分が子育てを経験していない年齢の子供の保護者と向き合うことになる。そのため、本当に保護者の気持ちが分かるかと言われると、おそらく本当には分からない。しかし、

それを想像しなければならないのが私達の仕事であり、マニュアルや仕組みの中で、「決まっていることしかできません。」と言える仕事ではないという大前提を持っていただくしかない。保護者からの要求があったとき、どこまでも保護者の言う通りにする必要はない。また、保護者の都合だけで何かに取り組む必要もない。そうではなく、「この子のために私も頑張っているのだから、保護者の皆様も頑張ってください。」というように、視点は違っても同じ熱量で子供に接していくことが求められる。そのような意識を皆さん自身に持ってほしい。ただ、管理職がそのことを保護者にきちんと説明しなければいけない。若い先生たちが、その部分をすごく負担に感じているとしたら、まずは保護者と学校の先生たちの気持ちを揃えるところを、管理職の仕事として初めにやらなければいけないと思う。子供は、問題を抱えて家から学校に行く。そして、その問題を学校で捨てていくかもしれないが、また新たな問題を拾って家に帰る。子供はその繰り返しである。どのように頑張っても、すぐに成果が出ることはない。今日言ったことが、その日のうちに解決することは少ないという大前提の中で、「自分には力がない。」と自分自身で気持ちを折ることがないようにしてほしい。皆さんに力がないのではなく、「子供は思うように成長しない。」ということが大前提だということを理解し、これからも教員を続けていってほしい。